The Prince and The Beggar
王子と乞食
HIDEKI KAWAI 河井英槻

王子と乞食
The Prince
and
The Beggar

王子と乞食

The Prince and The Beggar

河井英槻

Contents

3 [Ach,Du Lieber Augustin] Yuki

37 灰かぶりの魔女

77 赤い部屋へ行く①

115 赤い部屋へ行く②

153 宣戦布告

183 夢

205 夜

239 遊星歯車装置

271 in high summer <番外編>

284 王子と乞食のつくり方。

285 postscript

chapter: 00

[Ach, Du Lieber Augustin]

我らが
シャービーズ
カンパニー
カイ社長
の――……

お誕生日を…
この善き日に
祝しまして
――…

――…。

乾杯!!

……。

乾杯!!

カチン
チン
チン
チン

乾杯!!

社長!!
おめでとう
ございます。

おめでとう
ございます
社長!!

好きだとは、

結局 一度も
言えなかった。

President's office

ガコッ

チャーラ
ララ

……。

いや、違うな…

チャーラ
ララ

ズンチャッチャー
ズンチャッチャー
ズンチャッチャー

チャーララ
ズンチャッチャー

「右に1。」

キリリリリ。

「左に7。」

ズンチャッチャッ
チャー

その日が
来るコトは、

動くな。

ゴリ

いつそ必然
だったし、

最初に出会った
瞬間から、多分
お互いに
知れていた。

カイ社長……。

…パーティは？

ただ、

……。抜けてきた。

その瞬間が、来ないコトを祈る。

1秒でも長く、永遠に近く。

ターラーラーラー

おまえがいなかったから…

「今日」なんだなと思った。

彼とはずっと、

そんな関係だったと思う。

春から五ヶ月に渡って、
ロンドンはハイドパーク、
クリスタルパレスにて
開催された、
世界初の万国博覧会は
盛況を極め、
入場者数は六〇〇万人を

超える勢いであった。
機械部門では、
我が新興シャービーズと
古豪バスカヴィルの
一騎射ちとの評判高く、
秋の製品発表が
待たれていた。

王子と侯

おうじ　こじき

chapter:1 [Yuki]

President's office

カイ社長…

コンコン

至急目を通して頂きたい書類があるんですが…

カイ社長？

……。

失礼。

ガチャッ

ピピ…

バサバサ

バサ……

……。

しーん…

こっせん。

やりかけの仕事。たくさん。

あッの…
クソガキ!!

またいねぇ!!!

この頃、

万博は、「原材料」「工業製品」「彫刻・造形美術」部門を経て、

最後の「機械」部門の製品発表を残し、街中が最後の期待に沸いていた。

よーっ ユキー

また社長探しこんのかい? 毎回大変だなーっ。

あっ、ユキちゃん。社長なら また開発部にいたよーっ?

…ありがと。

がーんばれよー?

それは…、渦中にある我がシャービーズカンパニーも例外ではなく――…。

だからさー…この冷却機関もっと小さくなんねーか?

ネー

Machine development department

おいおい、社長さん…そりゃムリだって。

無理じゃねーだろー!!

いいか？ここントコのシリンダーをだなーっ

あっ、なるほどー

——…。

ドッ

うぉおー!!! 社長、すげぇ!!

さすが設計オタク!!

…。

えー そんなほめるなよ〜

いっや〜 天才っスよ〜

社長えらい!!

はっ

コラ。

あっ ユキー

いいかげん…社長室へ戻って頂けるとありがたいんですけどね。

おまえ、案外力あるなーっ。

そうゆー問題ではありません！

おめーがとっとと書類に目ぇ通さねーから下請けの工場が動かねーんだっつーの。

オラ、さっさと来いっ。

だってさー。

あっユキー!!

こっちだって社長がいねぇと困んだよ――。

そーだ そーだー!!

まさか おまえ…最近の新聞読んでねぇんじゃねーだろうなーっ。

ぐらぐらぐらぐら

倒せ! エース・バスカヴィル!!

オゥ!!

エース社長をぶっとばせ!

ぶっとばせぃ!!!

……。

社長がいないと負けちまうんだよォオオ…。

たのむよ~~ユキィイ

そんなに自信がないなら出品自体諦めやがれ。

そこをひとつ!!

神様 社長様 ユキ大明神様っ

こまかい…。

……。

あのねぇ、

私だってね…?

ぷっ

「私」だって!

連れていきたくはないんですよ?

だったらそのコ置いてって!!

そのコ…

しょーがねぇな

だから…、万博で金メダル取るより先に工場が潰れたら元も子もねーだろがよ…。

ユキちゃん オーボー!!
うるせぇっ! てめぇら 仕事 しやがれ!!
何ですって ～～～っ キ～ッ!
ギャースカ
「私だってね ……?」
「連れていきたくは ないんですよ?」
「キラッ」
なーんて! ずいぶんと 秘書らしく おなりでーっ。
ギャハハハ
るせぇっ クソガキッ!!
このまま!! 持てたらか。
……。
あら、スネた。
どーせね、 育ちが 悪いですよ。
……。
ぷっ
いやあ…

いいと…思うよ？マジで。

驚いたコトに

この会社は、こんな小さな少年が社長だ。

カイ社…

彼が、その才能ひとつで会社を興し、

…。

今ではこんな立派な工場まで建った。

ユキ…

もういーよ。下ろして？

……。

——…。

たったッ

たったッ

——自分の、

生まれて最初の記憶を手繰れば

場所は貧民街、ススけて暗いイーストエンドのドック(船着き場)。

そして次に一瞬…、輝く一面の森と湖が見えた。

きっと、森の方で生まれたんだよと誰かが気休めを言ったので、

そういうコトにしておいた。

嘘で固められた人生。

人々に愛され、

人々に信用され、

下卑た嘘を、彼はつく必要もない。

お――、上がってんな――っ。

飛行実験ですね…。

嘘つきな自分とはきっと。

まるで違う人生を歩む。

それは決して、

遠い未来の話などではなく。

ユキちゃーん！

？

手ェ出しな？

こう？

とた

とた

とた